

沖縄本島 恩納村

沖縄中・北部の海

Photo & Text : Takaji Ochi Model : Nikki Yamaguchi Special thanks : Benthos Divers



Design : PanariDesign

世界遺産にも指定されている勝連城跡地から、沖縄中部の海を一望する



海風と戯れる 心地いい場所

那覇から、国道58号線を車でひた走り、
一番最初に青く美しいコバルトブルーの海が見えてくる場所。
それが恩納村の海。小さな民宿に重たい荷物を投げ込むと、
瀬良垣ビーチの、のんびりとした景観に魅かれ、
明日からのダイビングに期待を膨らませる。
防波堤に座り、途中のコンビニで買ってきたビールを片手に海を眺める。
海風が心地良く頬をなで、
那覇の喧騒からはかけ離れた田舎な雰囲気と酔う。
自身にとっても4年振りとなる沖縄本島ロケ。

海中景観、生物、何もかもが新鮮に写った。

恩納村の瀬良垣ビーチをベースにしているベントスダイバーズの協力のもと、

恩納村だけでなく、本島中、北部の魅力的なポイントに迫る。



沖縄本島 恩納村……沖縄中・北部の海

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

Web-lue 2008 Winter



Information Link <http://www.benthos.info/> 関連情報HPへ



恩納村の瀬良垣ビーチにあるダイビングボート乗船ポイント

2007年9月半ば、台風11号、12号が立て続けに沖縄地方を直撃した頃、僕は取材で沖縄本島の恩納村に滞在していた。当然、台風の影響で海のコンディションは最悪。しかし、仕事だから潜らないわけにはいかない。恩納村の瀬良垣ビーチは、岬と岬に守られていて、かなりの強風でも風裏になり、台風が直撃でもしない限り、かなりの確率で潜ることができる。

音を立て吹きすさぶ強風の中、島に遮られて風が収まっているポイントを選択して、ダイビングボートに乗り込み海に出る。透明度は期待できないと思っていた。しかし、思ったよりも雨が少なかったせいなのか、波立つ海にエントリーすると、とても穏やかで、透明度の高い海中景観が広がっていた。

そして、僕を出迎えてくれたのは、様々な種類のかわいらしい海中生物たちだ。潜ったのは、地元ダイバー

たちからクロスライン、ナカユクイと呼ばれているダイビングポイント。「ナカユクイ」とは、沖縄の方言で「一休み」という意味だという。

水深10m前後の広々とした砂地とユビエダハマサンゴの根のスロープが続く。その中に多くの魚たちが生息している。トウアカクマノミたちが、この海のメインキャラクターの一つ。彼らのコロニーとなるインギンチャクが、砂地に点々と姿を見せる。人懐っ

かわいい魚たちに癒される、穏やかな海中景観。 恩納村の砂地ポイント



虎視眈々と僕の手に噛み付くチャンスを狙っているトウアカクマノミたち

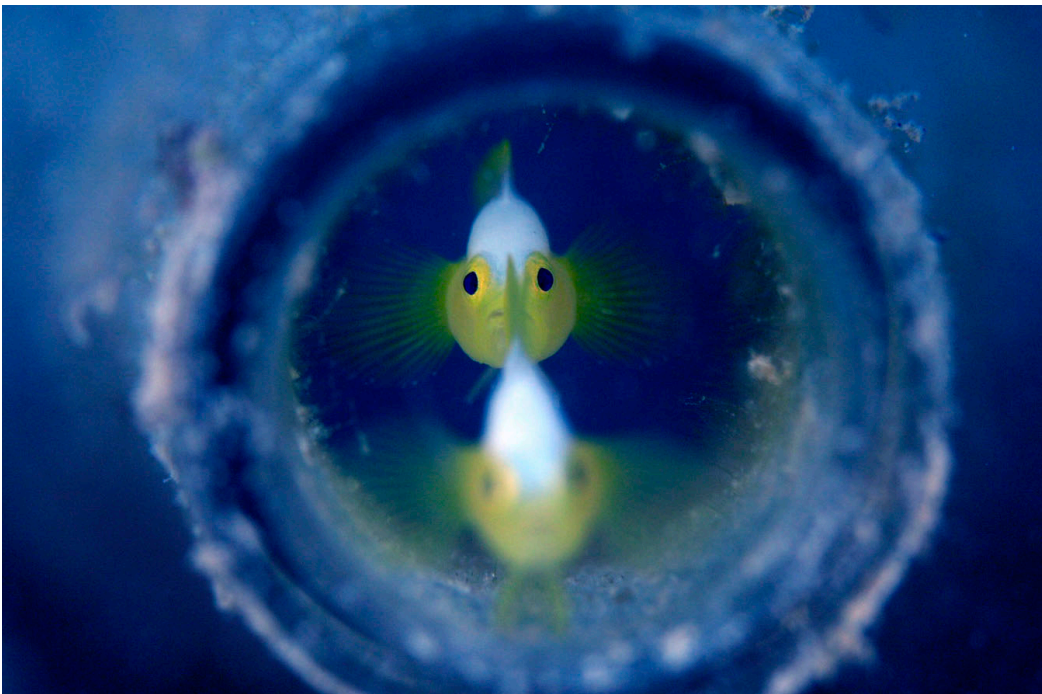


正面から見ると、マペットのキャラクターのようなオグロトラギス

こい彼らにカメラを向けると、まるでポーズを取るかのようにレンズの前でこちらに向かって顔を覗かせる。……ように見える写真なのだが、実は、カメラを持った手を彼らに噛まれながら撮影している。要するに噛むチャンスを狙ってこちらを向いているわけだ。

噛まれるたび、海中で「あいてて！ あいてて！」と叫びながら撮影をする。たまに本当にムカツイてひっぱたきたくなくて「このやろう！」と手を振り上げるのだけど、さっと身を翻して逃げていくから、当然叩けるわけもない。端でこの光景を見ていたらきつと滑稽だったに違いない。現に、横で様子を伺っていたガイドの佐々木君は、マスク越しにおかしそうに、そして呆れたように笑っていた。

ナ
カ
ユ
ク
イ



ビンの中から、ベアでこちらの様子を伺うナカモイロワケハゼ(上) ナカユクイに放置されている漁網にいた2匹のオオモンカエルアンコウ(下)

クロスライン

マクロの宝庫で 宝物探し

クロスラインの水深15mの砂地の海底には、ヒレナガネジリンボウやヤシャハゼなどの人気のハゼたちが点々と顔を出し、ナカユクイのメインのエリアから少し離れた水深30mの海底に転がるビンの中には、かわいらしいナカモイロワケハゼの姿を見ることができる。

海底に腹ばいになり、ちょっとスーカーチックにビンの中を覗き込みむと、最初はビンの奥に隠れていた小さなナカモイロワケハゼが、外の様子を伺うために、徐々にビンの口に近寄ってきて、僕と睨めっこになる。



クロスラインではいたるところで観察できるヒレナガネジリンボウ



ウミテングのベアなどのレアな生物にも遭遇



シャイではあるけど、ヤシャハゼの個体数も多い



ミミックオクトパスの兄弟とも言われている、ホワイ「V」オクトパスらしきタコも発見。

深いから、撮影時間はかなり限られてしまうけど、彼らのかわいらしいしぐさを見ていると、時間のたつのを忘れて、(わ～、かわいい～、かわいいな～)と一人にやけながら撮影に没頭する。一緒に潜っているガイドの大原君にチラッと目線を送ると、(もう、いいすか??)という顔でこちらを見ている。(もうちょっと、もうちょっと)と小さく合図を送り、またすぐにファインダー越しにビンの中を覗き込む。

小さな魚たちと、そんなやり取りをしながら撮影をする。海面は台風の影響で荒れまくっているというのに、ここにはほとんど音の無い、静かな静かな魚たちの平和な世界が広がっている。彼らを見ていると、嵐のことも忘れ、穏やかな気持ちになれる。

沖縄本島 恩納村……沖縄中・北部の海

Web-lue 2008 Winter



青の洞窟のエントランスホールは幻想的な青で包まれていた



昼に近づくにつれて、スノーケルの団体が洞窟内に押し寄せる



真栄田岬のビーチエントリーポイントの階段



太陽光を浴びながらダイビングを満喫する

冒険心をくすぐる、地形のバリエーション

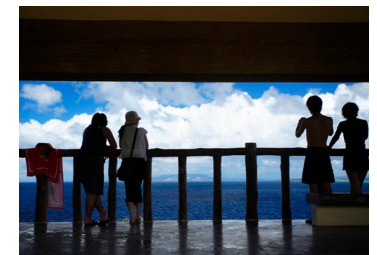
恩納村エリア、その隣の真栄田岬エリアなどには、豪快で魅力的な地形ポイントが点在している。台風の影響が無くなり、外洋に出れるようになった日には、そういったポイントに潜りに出かけた。「万座ドリームホール」は、恩納村エリアでも人気の高い地形ポイント。水深5mのリーフに口を開ける人、一人が通れるような縦穴から、周囲の壁面に機材をぶつけないように、慎重に穴底部分まで潜行していく。底部から見上げると、小さな入り口から、光のシャワーが降り注ぎ美しい。視線を落として、細い横穴の先を見直すと、光をまともに見てしまったせいもあるのだが、そこからでは出口が見えないために、真っ暗で先に進むのを一瞬ためらいそうになる。ガイドの後について、横穴を移動していくと、徐々にうす青い光が差し込みはじめた。眼前に、リュウキュウハタンボの群れに守られるように、外洋への出口が広がっていた。暗闇から、青い海に抜けるその小さな出口は、幻想的で、別世界への入り口のように光の中へ僕を導いてくれた。

真栄田岬のエントリー口から、海に向かって右方向へ移動していくと、岸壁の下に口を開ける洞窟がある。近年「青の洞窟」と呼ばれ、ダイバーだけでなく、スノーケルツアーなどでやってくるノンダイバーも多い。イタリアのナポリ湾に浮かぶ、カプリ島の元祖「青

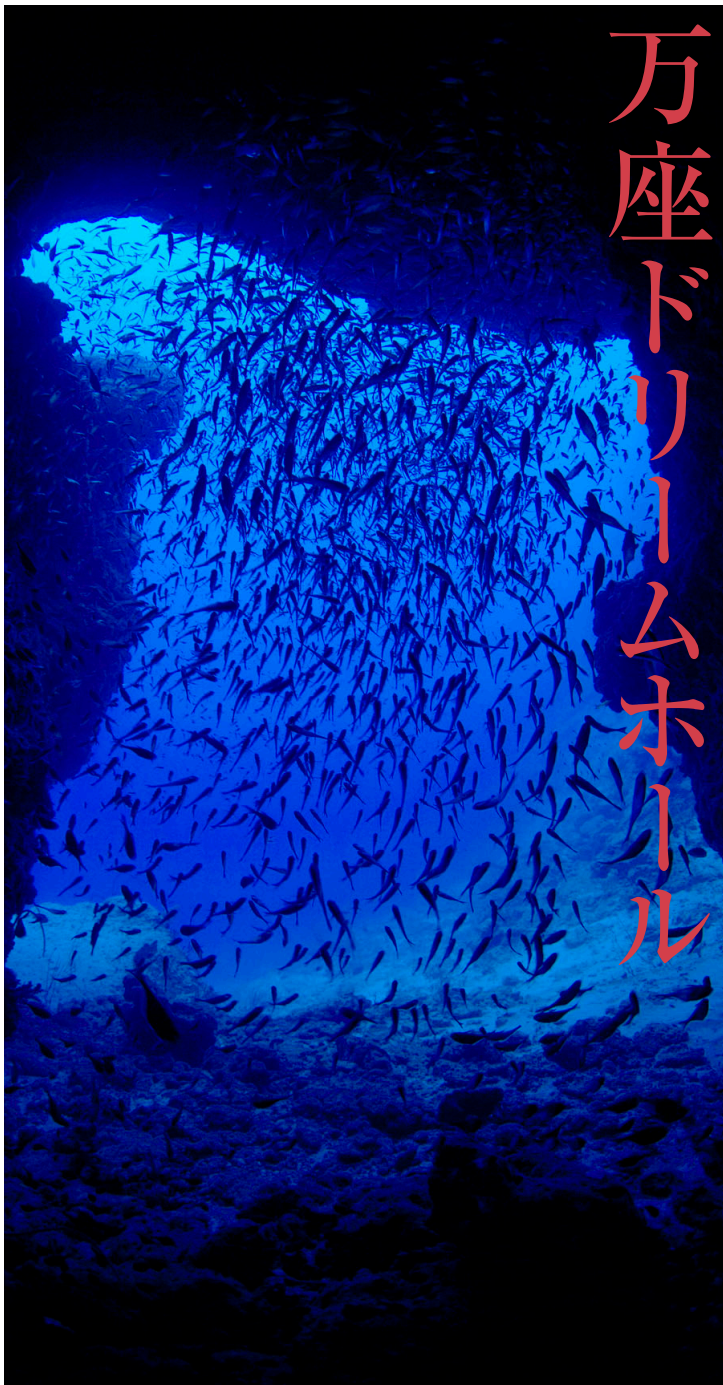
の洞窟」の沖縄版とも言うべきこの洞窟は、入り口部分が海面にも顔を出していて、そこから光が差し込み、洞窟の奥まで紺碧の帯のような神秘的な光をもたらし、見るものの心を癒してくれる。

洞窟の入り口部分は、ホールようになっていて、そこから奥へと続く通路状の地形が続いている。ここも入り口からスノーケリングで入って来れるため、シーズンや時間帯によっては、ダイビング中に頭上に多くのスノーケラーの足を眺めながらのダイビングになることもある。そんな時は神秘性も失われ、やや興ざめしてしまう。まあ、考えようによっては、自信無さ気海面に漂うスノーケラーの様子を下から眺めるのも滑稽で面白いと言えば、面白いのだけど・・・。

ある時間を過ぎると、洞窟内はスノーケラーで芋洗状態になりかねないので、もし、このポイントに行くのであれば、そんなスノーケラーの少ない早朝がお勧めだったりする。



万座ドリムホール



万座ドリムホールの横穴出口は幻想的な景観が広がる



水深25mで見せてもらった、ビッグミーシーホース



青い光のシャワーを
全身に浴びる幸福感

小さな縦穴から潜降を開始。ドリムホール

沖縄本島 恩納村……沖縄中・北部の海
Web-lue 2008 Winter



洞窟内にはエアドームがあり、神秘的なたたずまいを見せてくれる



港からは5分ほどで、ドームの入り口に到着する



悪魔の口のような不気味な様相を見せる鍾乳石。冒険心をそそる(上)
洞窟探検を終えて、ブルーの世界へと帰還する(左)

沖縄本島最北端の鍾乳洞ダイビング

同じ洞窟ポイントでも、辺戸岬の下に口を開く海底鍾乳洞は、自然豊かなヤンバルの森が広がる、沖縄最北端にある。恩納村からは車で約1時間。他に潜るダイバーでさえほとんど皆無と言ってよいくらい、神秘的な洞窟内部を独占状態で潜ることができる。

水深15mほどに入り口があり、洞窟の入り口はスノーケラーには門戸を開いていない。

内部はいくつかの部屋に分かれていて、この洞窟がまだ陸上にあったと推定されている2万年前ころに形成され、海中に没した鍾乳石が天井部から、突き出していたりする。

中には、悪魔の口のような様相を見せる鍾乳石もあり、こちらは、癒しの洞窟と言うよりは、どちらかと言えば、ダイバーの探検心を満たしてくれる「古代人の部屋」と地元ダイバーから呼ばれている

小さな空間は、底部が砂泥で覆われていて、着低するとその砂泥が巻き上がってしまうので、中性浮力をしっかり取って、慎重に入っていかなければならない。その中では、石器が発見されたり、貝塚らしきものが発見されたりと、古代の人々がこの洞窟を生活の場として使用していた痕跡が残っている。



矛打ちバンタのドロップオフの壁面は、カラフルなソフトコーラルに覆われている

沖縄本島 恩納村……沖縄中・北部の海
Web-lue 2008 Winter

エモンズ

外洋に眠る戦闘艦に潜る。
沖縄唯一の本格的な沈船ポイント

滞在先の恩納村から、車で約1時間北上。本部半島を越えると、海岸線に屋我地島が見えてくる。同島に続く橋を渡り、島内を抜けて島の反対側へ抜けると、海上を真新しく、長くてまっすぐな橋が青い海に突き抜けるように伸びている。全長1960mの古宇利大橋は、その先の古宇利島へと続いている。2005年に完成したこの美しい橋のおかげで、沖縄本島唯一の本格的な沈船ポイント、米海軍の掃海艇USSエモンズ（アメリカエリソン級高速掃海艇）への道も開けた。

全長は約106m、船首、中央、船尾にそれぞれ設置されたブイから潜行を開始する。船体は、船首を西、船尾を東、ブリッジ部分を北に向けて沈んでいる。時に、流れは船首から船尾方向に、あるいはその逆方向に向かって強く流れる。深度も深く、外洋でもあり、海のコンディションが良くなければ、なかなか潜ることが困難なポイントでもある。



絶景の古宇利大橋に、
車を止めて記念撮影
する観光客も多い

海面に向かって、鎮座する砲台の迫力に感動する

沖縄本島 恩納村……沖縄中・北部の海
Web-lue 2008 Winter

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

 Information Link  関連情報HPへ
<http://www.benthos.info/>



01



ダイビング前の準備は、いつも以上に慎重だ

沖縄唯一のTDIインストラクターでもあ
るベントスダイバーズの大原拓君が一番好きなポ
イントでもある沈没ポイント。今回、決してコンディ
ションが良いとは言えない取材期間中、このポイントに
潜ることができたことを、彼は特に喜んでた。

船上では、のどの渇きを癒すだけでなく、大深度

潜水を行うために、ペットボトルの水を可能な限り飲
み干すよう促される。潜水病になるのを避けるため
には、論理的で必要な行為ではあるのだけど、自分
にとっては気合入れの意味合いも含まれる。腹はタ
プタブになるが、その行為で身体が引き締まり、緊
張感が増す。

1本目は船尾側のブイからエントリーして、スクリュ
ー、後部の砲台、機銃を撮影、2本目は中央のブイから
エントリーしてブリッジ、砲台、船首を撮影し、同じブ
イから浮上するプランを事前に立てていた。

どんな海でも、初めて潜る時は緊張する。まず船尾
のブイからエントリー。ガイドの大原君と野本武蔵君
は、ダブルタンクを装着している。船からは、万が一
のために、レギュレーターの付いた予備タンクが海

眼下には、戦闘艦の巨体が 徐々にその勇姿を現しはじめる

中へと沈められ、船が波に揺れるのに合わせて、ロー
プが引っ張られユラユラと生き物のように揺れている。
流れはほとんど無かった。潜行途中、何も生物が見
当たらない。眼下には、戦艦の巨体が徐々にはっきり
とその勇姿を現し始める。緊張し、下半身が妙に
ムズムズしてくる。

フラフラと数匹のツバメウオが浮上してきて我々を
出迎えてくれて、緊張感を和らげてくれた。1945年、
第二次世界大戦中に古宇利島沖に沈んだ軍艦は、
水深45mの海底に、横倒しになって静かに眠って
いた。

巨大なスクリュ、天を見据えて静かに眠る機銃、
砲台……どれもが、腐食し、スポンジなどのさまざま
な海洋生物に覆われて、徐々に朽ち果てていく姿は、
船のミイラを見ているようでもある。船体から離れ、
海底を見回すと、魚雷らしきものが転がっていた。「信

管は付いたままなのだろうか……」そんな不安を感じ
ながら、シャッターを切る。

減圧停止を長めに行い、島に戻って長い水面休
息を取って2本目、中央のブイからエントリーして船
首へと向かう。1本目ほどでは無いものの、やはり緊
張感は拭いきれない。それは、水深40m以深で、限
られた時間内に予定通りに撮影をしなければいけな
いという以上に、戦争で沈んだ、この船に対する厳
かな気持ちから来るものだと感じていた。



02



03



04

後部、スクリュ部分 (01)

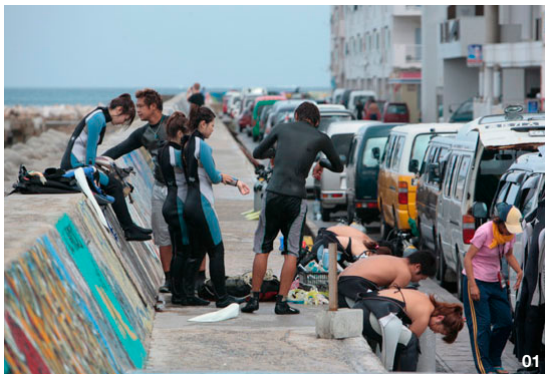
安全のために、ボートから予備タンクが吊るされている (02)

海底に散乱していた、魚雷のような物体 (03)

天を仰ぐようにある機銃は、エモンズの象徴的な部分でもある (04)

沖縄本島 恩納村……沖縄中・北部の海

Web-lue 2008 Winter



ポビ イ ン チ ト

海底遺跡が眠る砂辺と、レアなマクロ探しを楽しめるレッドビーチ

前に紹介した以外にも、沖縄本島中・北部には、特徴的で個性的なポイントが点在している。体験や講習で人気の砂辺ビーチポイントは、ダイバーでゴった返していた。この砂辺のビーチポイントの沖には、アステカのピラミッドを彷彿とさせる階段状の地形を見ることができる。琉球地方には、与那国の海底遺跡を代表とする、このような数多くの不可思議なポイントが島々に存在する。

全長40～50m、水深6mから20mまでの階段状の地形は、ピラミッドというか、城壁というか、そんな印象を受ける。まだ解明中で、はっきりしたことは不明だが、一見の価値はある。

レッドビーチは、東海岸の金武町にある、レアモノ狙いのポイントであると同時に、西海岸が強風などで潜れないときの、逃げのポイントでもある。透明度は悪いが、ときに思いもよらないレアモノに遭遇できる可能性もある。

今回、恩納村を基点に、沖縄本島中・北部のバリエーションに富んだポイントを潜ったのだが、天候条件や日数の少なさなどから、完全に全てを網羅することは、当然のことながらできなかった。しかし、そのようなダイビングを行うに当たって、沖縄本島の中心に位置する恩納村は、ベースにする場所として、

距離的にかなり有効な場所だと思った。それに那覇の喧騒から逃れて、本来の沖縄ののんびりした雰囲気を楽しめる上でも、恩納村は悪くない。

コンディションの良い時期に、じっくりと潜り込みに来たいと思えるポイントが数多くあるし、何よりもベントスダイバーズのガイドたちが、海や生物に詳しいことも、この海への期待感を増幅させてくれる。

砂辺に集まる、沢山のダイバーたち (01)
階段状の不思議な様相を見せる、遺跡ポイント (02)
背びれを広げた姿が美しい、カスリハゼ (03)
コミカルな表情の、ホタテウミヘビの若魚 (04)
レッドビーチで発見したレアな生ぶるのイッポンテグリ (05)
ガンガゼの中にいた、ミヤコイシモチ (06)
砂泥地に生息するニューウドテハゼ (07)
サイズの大きなウミテングも発見 (08)



沖縄本島 恩納村……沖縄中・北部の海
Web-lue 2008 Winter

Information Link <http://www.benthos.info/> 関連情報HPへ



〈沖縄〉

日記の中の沖縄は、現実と非現実の狭間みたい。やりすぎちゃうとすぐ現実を離れて人生の失敗を侵す日記としては、沖縄は地球人として、きちんと成長させてくれる場所だと思った。

都会の様に窮屈じゃなくて自由。何でもありの世界じゃなくて、常識がある。

かっこいいゼイ！ 沖縄。

〈漁師〉

大きいマヒマヒを釣り上げて「イロ、キレーナルヨォー、ミテテ」「ホレ、コレイロキレーナルヨ」って何度も言う漁師さん。

本当に死ぬ寸前、キレーなった。シルバーブルーのようなメタリックな感じよ。でも……死ぬ寸前を見るのは少し辛いものがあつた……!!マヒマヒの心を感じ取った。これが自然！

つくしの様に立っている緑色の奴ら。「コレソタチスギタ」「コレハアカチャン」って細かく教えてくれる海ブドウを育ててる漁師さん。

みんなそれぞれに熱い心があつた。

〈沖縄Ⅱ 洞窟Ⅱ 男Ⅱ 気〉

すごいキレイなダイビング。久しぶりだった。海の観光地だ。

おもしろい!!

人も魚もみんな、みんなが観光の風景だった。

魚を操る事が出来る、

「気」を出すインストラクター、男。

まるで路上パフォーマンスを見てるみたい。

魚も寄ってくる。

「人力車のんない？」って言われてる気がした。

「何かちょーだい」っておねだりされた気がした。

ココ、浅草!!

別の町に迷い込んだみたいで楽しかった。

そういうダイビングも良かった。

キレイでメルヘンな海が多かった。

たまには、男を感じに辺戸岬ドームへ。

もつとかつこよくなりたければレッドビーチへ。

みたいな笑。

いろんな海が見れた。

もつと沖縄を知りたい！

Impression

沖縄本島 恩納村……沖縄中・北部の海
Web-lue 2008 Winter

Information Link <http://www.benthos.info/> 関連情報HPへ



ビギナーから楽しめる山田ポイント



海底に鎮座する巨大な岩が印象的なホーシュー



人工物のような、階段状の地形が興味深い、砂辺の遺跡ポイント



真栄田岬の青の洞窟の再奥部

ポイントガイド

恩納村エリア

ナカユクイ

恩納村を代表する癒し系の砂地ポイント。瀬良垣の港から5分。エントリーポイントには、ユビエダハマサングの根が小さな山脈のように連なっている。ナカユクイとは、沖縄の方言で「一休み」の意味。砂地には、トウアカクマノミやカクレクマノミが生息し、メインのエリアから離れた魚網にはオオモンカエルアンコウ、水深30mに沈むビンの中にはかわいらしいナカモトイロワケハゼなどのレア生物を見ることが可能。

クロスライン

ナカユクイ同様、恩納村の瀬良垣の港から6分ほどのポートポイント。平均水深はナカユクイより多少深くなるが、水深15m前後の砂地では、ヒレナガネズリンボウ、ヤシハゼなどのハゼ系の個体数が多く、今回のロケではミミック系のタコやウミテング、カエルアンコウの幼魚などのレアな生物と遭遇。

万座ドリームホール

リーフトップにある水深5mから25mまで落ち込む細い縦穴から潜行して、25m付近に空く横穴からドロップオフの壁面へと抜ける。冒険チックな地形ポイント。横穴の出口付近には、リョウキュウハタンボが群れをつくり、暗闇から、クリアブルーの海をバックに美しいシルエットとなって、ダイバーを魅了する。

ホーシュー

万座エリアにある、透明度の高い海中に、ドロップオフが魅力の豪快なポイント。宇宙空間を浮遊しているような感覚が楽しめる。リーフエッジから、一気に水深50mまで落ち込み、ドロップの下に超巨大な岩がゴロリと横たわっている。その最下部にあるイソバナの中で、今回はビッグミーシーホースを見せてもらった。その他、キンチャクガニ、アケボノハゼなどのマクロや、イソマグロなどの大物回遊魚も期待できるポイント。

真栄田岬（青の洞窟）

沖縄本島で最も高い人気を誇るビーチポイント。最近人気なのが、スノーケリングツアーでも入ることができる「青の洞窟」。ビーチエントリーポイントから右手に移動した岩場に口を開けている。スノーケルでも入っていけるので、夏のシーズン中は、スノーケル客とダイバーでごった返す。

山田ポイント

真栄田岬から近い、リーフ内の浅いポイント。波や流れの影響を受けにくく、体験ダイビングなどにも使用されるポイント。砂地のスロープとサンゴの根が点在して、餌付けされ人馴れしたオヤビッチャ、デバスズメダイ、ロクセスズメダイなどが大挙して押し寄せてくる姿は、圧巻でもある。数種類のクマノミが見れることでも人気のポイント。

その他のエリア

砂辺・遺跡ポイント

北谷の砂辺ポイントから見ることのできる遺跡ポイント。今回は「本島の変ったポイント」ということで、このポイントに潜りに行った。ビーチエントリーポイントからはかなり移動距離があり、ゆっくり往復するにはエアに消費に注意。海中には、水深20mから水深10mまで立ち上がる、5段の巨大な階段状の地形があり、段上は「武者走り」と呼ばれたり、きれいな断面を持ち、上部から水底に向かって円柱状にえぐりとられた場所などがある。

USS エモンズ

本部半島北東に位置する古宇利島北東、水深45mの海底に沈む、第二次世界大戦当時の米掃海艇。2001年2月に発見され、現在では、沖縄で唯一、本格的なレックダイビングが楽しめるポイントとなっている。深度が深く、外洋でもあるためベントスダイバーズでは、ディープダイビング経験が豊富な100本以上のダイバーに限定。深度も、テクニカルダイビング以外はー36mまでと制限して安全なダイビングを心がけている。

辺戸岬ドーム

沖縄最北端、辺戸岬の海中15mに口を空ける海底鍾乳洞。横穴から洞窟内にエントリーして、狭い通路を抜けると、内部にはエアドームがあり、浮上可能。鍾乳洞は海中で形成されることはなく、おそらく最も海面の下がった2万年前ウルム氷

期に形成された洞窟と推定されている。エアドームの横には、「古代人の部屋」と呼ばれる小さな空間があり、そこからは石器や貝塚なども発見されている。洞窟内の水温は年間通じて21～22度。ここもベントスダイバーズでは、ケーブダイビングのルールに従って安全なダイビングを行うように心がけている。

茅打バンタ

辺戸の港からだ、ドームより手前になる、断崖絶壁の下に続くポイント。壁には、色とりどりのウミサカサの群生が美しく。岬の先端部分は、イソマグロやカマスサワラなどの大物回遊魚やナポレオンなどとの遭遇が期待できる。壁は、スミレナガハナダイが多く生息していたり、岩礁部には美しいセナキスズメダイの個体数も多い。

レッドビーチ

沖縄東海岸の金武町にある米海兵隊訓練施設の横にある、超レアモノマクロポイント。ビーチエントリー。しばらくはがれ場が続く、途中から泥地となる。透明度は極めて悪く、沖に出ると深度がほとんど変わらない平坦な泥地が続くので、コンパスでの位置確認が重要になる。ニューウドダテハゼやクロオビハゼ、カスリハゼなどの泥ハゼ系も多く、今回はイッポウテグリ、巨大なウミテングなどを目撃。



沖縄の海と、海中生物を愛するガイドたちが揃う

ガイドショップ

ベントスダイバーズ

1999年6月創立の、恩納村瀬良垣ビーチに拠点を置くダイビングサービス。同年9月にはPADIリゾートとして、2002年3月にはTDIテックダイブファシリティとして認定。ベントスとは水底生物の意味。本島中部に位置し、30はある恩納村のポイントから近いというだけでなく、北部のエモンズ、辺戸岬といった、テックの知識が必要なポイントから、那覇に近い砂辺などの人気エリアも全て射程圏内の立地が魅力。特に辺戸岬ドームやエモンズを潜るダイビングサービスは少なく、かなりオールラウンドにダイビングポイントを網羅している。

体験、講習、ビギナーダイバーからシルバーダイバーへのケアもしっかりした礼儀正しいスタッフがそろい、加えて生物の生態に詳しいガイド陣がそろそろ。

オーナーガイドの大原拓君は、沖縄唯一のTDIインストラクター・トレーナーの資格を有し、フロリダにて、NSS・CDSフルケープダイバーの資格を取得、フィリピンのレックなどでトレーニングを積んできている。久米島の水深39m(全長410m)にある洞窟、ヒデンチガマや恩納村で発見された水深37m(全長648m)のヒロベガマの調査にも参加している。

ソフトでゆる〜いダイビングから、ハードで冒険心をそそるダイビングまで全てのニーズに答えてくれるダイビングサービス。大原君は英語も堪能なので、外国(英語圏)からのダイバーも歓迎。

<http://www.benthos.info>

きじむなあ

ベントスダイバーズ2階にある沖縄料理の店。オーナーの大原君やスタッフ自らが作り上げた店内は、おしゃれでかつ、落ち着いた雰囲気、居心地が良い。人気メニューはなんと言ってもオリジナルメニューの「オムタコライス」。たっぷりのマヨネーズとトマトケチャップのかかった、ほんわりとやわらか〜い、オムレツの乗ったタコライスは、若い人を中心に大人気。シーズン中には、那覇などから1時間以上かけて「オムタコライス」を食べにくるファンで、総席数40の店内は満席状態。店の外にも行列ができるくらいの人気。地元の特産品を使った、あっさりした海ぶどうバススタ、タコライスなど、その他にも美味しいメニューがそろそろ。



沖縄本島 恩納村……沖縄中・北部の海

Web-lue 2008 Winter